



褥瘡について

褥瘡対策委員

伊藤 加奈子

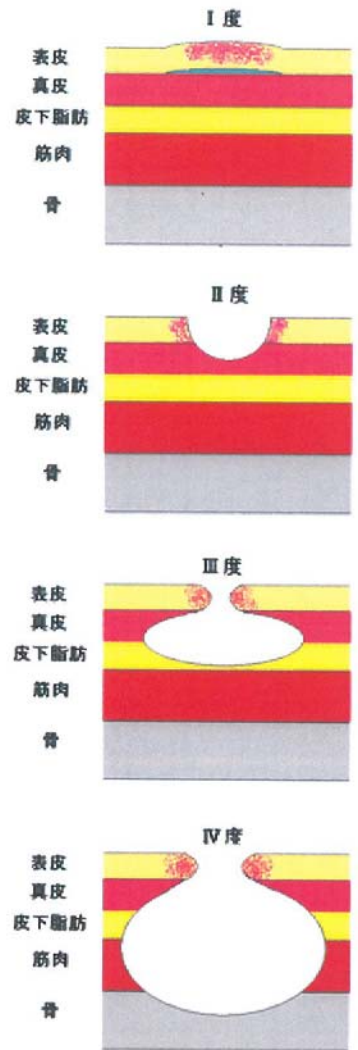
当院では、各病棟に褥瘡対策委員がおります。委員は、ベッド臥床の患者様や上下肢の筋力が低下して、自ら動けない患者様などに褥瘡が出来ないように日々努力をしています。

今回、好発部位や原因について話をさせていただきます。褥瘡（じょくそう）とは、長時間ベッドに寝ている患者様や車椅子を利用している患者様に多く見られ、いわゆる“床ずれ”と呼ばれるものです。痛みなどの知覚の低下した場合に発生しやすくなります。

好発部位は骨と皮膚との間に加動がかかりやすいところで仙骨部（おしりの中心）坐骨部（座ったときに当たるおしりの両脇）大転子部（横になる時に当たる腰の部分）などです。圧が長時間加わることにより、その部位の血行が悪くなり皮膚、皮下組織まで傷害されます。また、ずれにより生じる力も褥瘡の原因となり予防が大事です。

その為、時間毎の体位交換や長時間圧迫しない様、体交枕の使用を行う必要があります。このように、長時間の圧迫とずれというものが褥瘡の最大の原因ですが、これらに加えて栄養状態、関節変形、運動能力の低下といった様々な要因が絡みあって悪化する為、治療には多方面からのアプローチや早期の治療が必要となります。褥瘡の症状は様々な深さ、広がり呈します。浅いものは皮膚の発赤やびらん（浅く皮膚がむけたもの）ですみませんが、深くなれば皮下脂肪や骨まで達します。また広がりも様々で、でこぼこのようになっていたものもあれば、表面は小さくても中に大きなスペースを形成（ポケット形成）しているものもあります。感染の程度も様々で、深く感染が及んでいるものもあり、壊死組織（死んだ組織）が付着していることもしばしばあります。

褥瘡について説明しましたが、褥瘡を作らない為には毎日の栄養バランスと生活のリズムを整え寝たきりにならない事が一番だと思えます。



褥瘡の進行度による分類

国民健康保険に加入の皆様へ

平成24年7月1日から保険証が新しくなります。日田市国民健康保険、一般被保険者証・退職被保険者証はお一人一枚ずつのカード様式です。窓口には新しい保険証を提示してください。現在の緑色から桃色に変わります。

役に立つカビたち

管理栄養士 戸山 清美

梅雨に入り、ジメジメした嫌な季節になりました。この時期、姿を現すのが「カビ」。おそらく、カビに対して良くない印象を持つ人が多いと思います。しかし、みなさんは、おそらく毎日、何らかの形でカビのお世話になっているのです。

例えば、味噌・醤油・酒を作るには麴というものを使います。これは穀物（米）にカビ（コウジカビ）を生やしたもので、その中には酵素が集積されています。酵素というのは、生物が作り出すたんぱく質で、栄養分を分解・吸収・合成するなどの化学反応の触媒（それ自身は変化しないが、その存在によって反応が進む物質）です。この酵素によって、食品の成分や味・香りなどが変化するので。さらに、酵素は精製され、食品ばかりでなく、消化促進作用のある医薬品や、工業製品の製造などにも用いられています。

医薬品として利用されるその例として、古くからよく知られているペニシリンがあります。この薬はフレミングが、バクテリアの成育を抑える作用をもつ物質として、アオカビ（ペニシリウム）から見出したものです。そして、有害な微生物による病気（感染症）を治すために利用されるようになったのです。

その後、感染症に対するさまざまな薬が開発され、感染症が大きな脅威ではなくなると、いわゆる生活習慣病の治療薬を見つけることが重要になりました。そこで、コレステロールの生産を抑える物質をカビの生産物の中から見つけることが試みられました。その結果発見された物質は、後にプラバスタチンとして知られる高脂血症治療薬のもととなりました。また、臓器移植に用いられる免疫抑制剤や、抗真菌剤などがカビから見出され実用化されています。自然界にいるカビは、医薬の世界でも宝の山であるわけです。このように、私たちの生活は、まさに微小な菌類（カビや酵母）によって支えられているのです。



医療法人百花会 上野公園病院

通所リハビリ ふきのとう
居宅介護支援センターうえの

ホームページアドレス

<http://www15.ocn.ne.jp/~uenokoen/>

E-mail

uenokoen-hp@qiga.ocn.ne.jp



作業療法だより

いよいよ、梅雨に入り、蒸し暑く過ごしにくい季節がやってまいりました。例年であれば裏の畑に野菜を植えていた時期ですが、今年は春に風邪が流行し、入院患者の皆さんでの準備が出来ず遅れている状態です（6月9日現在）。秋の焼き芋大会に向けてさつまいもの苗も植える予定ですので、その様子を紹介していきたいと思います。

話は変わりますが、先日、日田・玖珠地域の新人リハビリ歓迎会・懇親会に参加してきました。リハビリは理学療法士（PT）、作業療法士（OT）、言語聴覚士（ST）とあり、全員ではありませんが70名以上の参加者がありました。その中で今年も十数名の新人が私たちの地域に入っています。数年前までは今の半分以下の人数でしたが、ずいぶん活気に満ちてきております。当院にいる私たちも認知症に携わるOTとして、地域の皆さんや同じ専門職の者に色々な情報を発信していけたらと思います。

